

令和5年度 江戸川区立春江中学校 学校関係者評価 年度当初・中間報告書

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自ら進んでよく学び、協力して働く生徒</li> <li>○規律を守り、責任を重んずる生徒</li> <li>○心身ともに健康で、思いやりのある生徒</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目指す学校像</li> <li>目指す児童像</li> <li>目指す教師像</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○未来を主体的に生き抜く力を育む学校</li> <li>○夢や志を抱き、自分の力で困難に立ち向かいながら、前に進むことができる生徒</li> <li>○深い専門性をもち、自ら改善・向上を目指し、授業力・指導力・情熱・使命感・実行力のある教師</li> </ul>
前年度までの学校経営上の成果と課題	<p>&lt;成果&gt;・教職員が、生徒に合わせた支援型指導や迅速な対応により、落ち着いた学校生活に加え、何事にも一生懸命に取り組む生徒が多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修に加え、自己研鑽に励むため、学校全体でのデジタル化が進んでおり、授業でもICTを活用する教員が多い。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;・生徒自身が学びに向かうこと、自己の課題を発見しその課題を解決するために主体的に取り組む、思考・判断・表現する力を育成させること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状は、不登校生徒の割合が高い。よって、エンカレッジルームを拡張して、学びの場や場所を確保して学校を「みんなが安心して学べる場所」とする。教育相談委員会を充実させ、SSW、SCと連携を図り、実効性のある取り組みを行い、不登校生徒の継続数の減少、新規数の抑制を図ること。</li> </ul>		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策
				取組	成果	成果と課題	評価	
学力の向上	<学力の向上> ・授業支援の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対するための、自発的、自律的、かつ自らの学びへ行動できるようにするため、各授業に「てあ〜」などの学習の目標や内容等を明示する。 ○各教科での授業では、話し合い活動などの協働的な学びや問題解決学習・探究的な学習など創意工夫を生かした授業を展開する。	○生徒一人ひとりが「何のために学ぶのか」という学びの意義を実感できる環境を整える。 ○自己の目標を選択・設定して、その目標を達成するために、自発的、自律的、かつ自らの学びへ行動できるようにするため、各授業に「てあ〜」などの学習の目標や内容等を明示する。 ○各教科での授業では、話し合い活動などの協働的な学びや問題解決学習・探究的な学習など創意工夫を生かした授業を展開する。	○定期テスト前の朝学習でデジタル教材「ミライシード」を取り組み、「児童生徒の学力向上を図る調査」の「確実にできている」となるまで繰り返し練習している」の項目において肯定的な回答が70%以上になる。 ○令和5年度「全国学力調査」の全ての教科で平均正答率を3%以上回る。	A	B	○定期テストだけではなく、授業内でも「ミライシード」を活用し、江戸川区の中学校で「生徒のアクセス数」が1位であった。デジタルツールも活用し、自らの相応しい学習方法や効果的な学習方法をみつけ、学力が向上することが課題である。 ○全国学力テストにおいて、数学は1ポイント上回ることができたが、英語と国語に関しては下回っていた。学習に対して苦手意識をもっている生徒に対して、丁寧な指導し理解力を向上させていくことが課題である。また、英語の「話すこと」においては、授業で「話す」機会を増やしていく。	B	○学力向上はどの学校でも大きな課題だと理解している。春江中学校の生徒がしっかりと家庭学習が定着して、全国平均、東京都の平均を上回ってくれるように先生方には指導や授業改善に努めてもらいたい。 ○数学では「知識・技能を問う問題」「短答式の問題」が全国平均を下回っているため、正答率を向上させていくために習熟度授業で表やグラフなど視覚的にわかりやすい教材やICTを使ってきめ細かな授業を展開していく。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	○探究的な学習を進めるために、課題を自ら設定しその内容を学び、問題を発見し情報を収集し、問題解決に向けての情報を効果的に整理・分析し、自分の考えを論理的にまとめ表現できるように、調べ学習・POP作りやヒピリオバルなどを実施する。 ○学校図書館の利用を計画的に実施し、調べ学習等、探究活動の場として、図書館司書と連携し学校図書館の効果的な活用を進める。	○読書科については、ポップの制作・ヒピリオバルを通して、読書の有用性を感じ、得させ、生徒自身の考えや生き方を広げていく。 ○調べ学習・学習コンクールと教科横断型学習を実施。課題解決型の探求学習をおこなう。 ○「図書館を使った調べ学習コンクール」「全国学校図書館POPコンテスト」や「角川文庫POPコンクール大賞」などに応募し、全国規模の取り組みで入賞できるような豊かな表現力・探究力を育む。入賞3作品以上を目指す。	B	B	○読書科の取り組みで生徒が幅広いジャンルの書籍を読むための書籍紹介するなど知識や理解を深める取り組みをおこなった。読書科の取り組みや弁論大会などを通してスキルを磨き、自信を深め、様々な場面で自分の意見や主張を適切に伝える力を高めていくことが課題である。 ○様々なコンクールに向けて、生徒の興味や関心に合わせて魅力的な作品紹介やテクニカルな指導を通して生徒の読解力を高めていく。	B	○昨年度はコンクールで受賞した生徒がいて、とても誇りに思っていた。夏休みの課題だったり、宿題の充実が見て取れた。 ○読書習慣がない生徒に対して、興味関心をひく本の選定を進める。また、読書の楽しさ、良さを委員会活動を通して生徒に伝えていく。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上>	○保健体育科の授業は男女共習で行い、自身の健康に関心をもち、生徒が運動に親しむ。 ○「体育理論」を通してスポーツの効果・学び方を理解させる。 ○実生活と照らし合わせながら、生涯スポーツに親しみ入り口の中学時代でスポーツ習慣をつくり、健康の保持増進と体力の向上を目指す。	○新体力テストの判定「DE層」を10%以下にする。 ○運動量は授業の50%を確保し、体力向上を図る。言語活動の充実を図り、運動の楽しさを実感させる。 ○共習により、性別にかかわらず自分や仲間と心と向き合って、体を動かす楽しさや心地よさを味わいながら、心と体をほぐしたり、体の動きを高めた方法や修徳させる。	B	B	○新体力テストにおいて「DE層」の割合は6パーセント以下であった。授業冒頭での補助運動、補強運動の成果がでている。自身の体力に興味をもち、自分に必要な運動や知識の習得ができるように指導していく。 ○共習していることにより性差を意識できたり、他者を劣る気持ちや態度が身に付き始めている。お互いを尊重しながら行動できる態度を育成していくことが課題である。	B	○体育の授業でパラエティクスの補助運動を取り入れていく。また保健の授業では栄養バランス、よい食生活について指導し、食と体力と健康をリンクさせた指導を実践していく。
共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> ・エンパワー・サードデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実 ・ボランティアマインドの醸成を促す	○黒板を授業のためだけに使用する、生徒に必要な連絡事項は背面黒板にする、具体的な指示など生徒が学びやすく、過ごしやすい学校にする。 ○エンカレッジルームでは自分の取り組み課題など居場所やできることが増える環境としていく。 ○地域と生徒が「つながる」ことで生徒の地域愛を育み、地域貢献や地域活性化に意識を向けさせる。	○生徒が居場所となる環境として学校サポート教室とも連携していく。将来的には社会的な自立ができるように声掛けや支援をするための情報共有を週に1回おこなう。 ○不登校児童・生徒の新規出現率が東京都平均より下がるようにしていく。 ○町会のお祭り、防災訓練、運動会などのボランティアに参加する延べ人数を150人以上にする。	A	B	○すべての教職員が生徒に寄り添った指導を実践している。生徒向けの生徒意識調査でも、「学校には居場所がある」の回答に対して前向きな回答は、96%となっており、生徒が主体的に行動できる支援を受けてきた成果である。エンカレッジルームに登校している生徒が少しでも教室へ入れる、登校できるように生徒へ寄り添いながら支援していくことが課題である。 ○不登校児童・生徒の新規出現率が東京都の平均を上回ってしまったので、今後は増加しないように生徒へより一層、寄り添った取り組みを継続していく。 ○ボランティアに参加する生徒が増えた。またそのような機会を7回設けたことができたことは開かれた学校作りを進めている成果である。	A	○「学校が楽しい」という項目でも肯定的な回答が高く、とても嬉しい。地域の人間として、地域の中学生が生き生きと学校へ登校できていることに安心した。また、先生方の指導の成果に感謝している。 ○生徒ができることが増える「授業になるように改善を図る。話し合い学習、学びあう学習、タブレットなどを活用して単調に感じない授業展開を実践する。 ○学校行事や地域行事など生徒が活躍できる機会や誰もが参加しやすい機会を提供して自分たちで作り上げる、自分たちでやり遂げるなどの成功体験や自己肯定感を高めさせる。
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用	○生徒に寄り添い、関係諸機関と連携しながら、「どこに」つながりがもてていない不登校生徒をゼロにする。 ○カウンセリングマインドをもって生徒の悩みや心配事について生徒や保護者の相談の寄り添って対応する。	○居場所づくり、学びの継続をモットーにして不登校生徒の新規出現率を2.73%以下、継続出現率を3.03%以下にする。 ○hyper-QUで実施した結果をもとに講師を呼んで校内研修を1回実施する。研修を経て生徒理解、学級理解を深めていく。	B	B	○エンカレッジルームを工夫して生徒の居場所となる部屋にしている。どこにもつながらない生徒を作らなため環境作りや支援を教職員が進めている。 ○居場所づくりは実践できているが、不登校生徒の新規出現率、継続出現率は目標以下であった。 ○hyper-QUを実施し、充実した校内研修をおこなった。今後は、講師からの意見や助言を参考にしながら運営に繋ぎたい。	B	○不登校の生徒は全国的にも増えていることを知れた。様々な事情を抱えている生徒に対して先生方が丁寧な対応、声掛けしていることも知れて安心した。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	○年4回の学校公開、授業参観など保護者が学校の様子や教職員に関わる機会を設ける。	○学校ホームページを1週間で3回更新し、校内の様子や学校の取り組みを保護者や地域へ周知させる。80,000閲覧数を目標とする。 ○学校公開を年に4回実施し、保護者会や文書を通して本校の教育活動を周知させる。	B	B	○副校長、担当を含め学校の行事や授業風景など教育活動の様子をホームページで随時更新している。閲覧数も昨年を上回っており、学校の取り組みが保護者や地域へ伝わっている。 ○学校公開を実施し、地域や保護者が学校の状況を知ることができるといった機会を設けた。さらにターホール船堀にて保護者、来賓を入れて合唱コンクールを実施する。	A	○ホームページを見ることがあるが、よく更新されていて良い。 ○盆踊り、防災に関しての行事が年が、春江中学校の生徒がとても良く働いてくれていて助かった。これからは参加してほしい。 ○随時学校ホームページを更新し、学校の行事や日程、日常の様子などが保護者、地域に見て取れるように発信していく。 ○学校公開だけではなく、行事に対して「開かれた学校」を意識して多くの方をホームページを活用して発信していく。
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	○学校評議委員会の実施、学校公開を通して「開かれた学校」づくりを目指す。 ○学校行事(運動会、合唱コンクール等)において学校評議員との連携を深め、教育活動の改善を図る。 ○地域のボランティア活動を通して、生徒のボランティアマインドの醸成と地域との「つながり」を目指す。	○年に2回、土曜日の授業公開で学校評議員に「開かれた学校」づくりを目指す。 ○その後の評議員会が学校の現状と課題について共通理解を深める。 ○地域団体が来校し、生徒を直接指導する場を設定する。地域を愛し貢献できる生徒を育成するためのボランティアを5回設ける。	○学校評議員を実施し、図書館についてや、不登校生徒、ボランティア活動に対する意見や助言をもらい学校経営に反映させていく。 ○合唱コンクールをターホール船堀で実施し、生徒の活躍を地域にみってもらう機会を設けていく。 ○生徒が地域とつながる機会として、地域行事の積極的な参画できる機会を設けている。集まった生徒に対しての指導は、地域団体が来校し生徒に直接指導する場を設定して実施している。	B	A	○図書館がとても充実している。図書館よりも良くできていて驚いた。引き続き、生徒が読書に触れ合う機会を多く設けてほしい。 ○ターホール船堀での合唱コンクールは保護者としてとても嬉しく思う。ぜひ、来年度以降も実施を前向きに考えてほしい。 ○学校評議員がより良く運営できている状況を継続し、より一層の意見交換、フィードバックをしていく。 ○学校公開だけではなく、行事に対して「開かれた学校」を意識して多くの機会を設けていく。	
特色ある教育の展開	<教職員の働き方の改革> ・学校における教職員の働き方改革プランの推進	○学校における働き方改革プランに基づく取組の実施	○行事の案内、月行事予定など従来は紙で配布していたことを、「tetoaru」で配信をして時間を削減する。 ○ミライシードの特性である自動探検を採用して負担を軽減させる。 ○時間外勤務をする教員を0にする。	B	B	○「tetoaru」を積極的に活用することで印刷する時間が削減できていた。また、 ○三者面談ではBookingsをすべてのクラスで使用して用紙の削減、日程調整の時間の削減など効果を得た。課題が残る面を改善しながら教職員の働き方改革につながる活用をしていく。	B	○先生方の働き方が問題となっている。教員不足もそこにつながっていると思う。やらなければいけないことも多くあるが、業務を精査して是非とも先生方の働き方改革を進めてほしい。 ○教員からの聞き取りなどを生かして校務や行事を精査を引き続き検討していく。
	<教育のデジタル化の推進> ・生徒の個別最適な学びの実現に向けたICT機器の活用	○個々の生徒に応じたきめ細やかな指導方法の実践	○オンライン授業の実施、ミライシードの「オクリンク」を活用した課題回収の実践を通してデジタル化を推進する。	A	A	○オンライン授業を実施していること、ミライシードのオクリンクを活用した課題回収の実践を通して家庭学習を定着させることが課題である。	B	○大人より中学生の方がデジタル機器を使いこなせると実感している。これからの社会はデジタル化を使えなければならぬので、この結果は時代に即している良いと思う。 ○教職員がデジタルツールの使い方、アプリなど知識を深めていくために校内研修を実施したりベネッセの支援員と連携していく。